

# information

編集部：以下のセッションについては残念ながら記録が残っていないため、割愛した。  
なお、関心のある方は、それぞれの項目にインターネットホームページを記載しておいたので、参照していただきたい。

## L-1

- コクラン共同計画について：津谷喜一郎

コクラン共同計画（CC）とJANCOCについて解説した。

編集部：JANCOCについては、「閉会の挨拶」（P.466）で津谷喜一郎氏が述べているので、それを参照して下さい。

JANCOC ホームページは <http://www.cph.mri.tmd.ac.jp/JANCOC/HomePage.html>

The Cochrane Collaboration のホームページは <http://www.hiru.mcmaster.ca/cochrane/>

## L-2

- コクラン・ライブラリー最新版デモンストレーション：柳 元和（TIP）

コクランライブラリーとは、コクラン共同計画で解析の終了した systematic review の結果などを搭載した CD-ROM である。セミナー開催当時の最新版を使用して、コクランライブラリーの利用方法をデモンストレーションした。現在は、1999 年の issue 3 が発売されており、1999 年 issue 2 から CD-ROM が 2 枚一組となっている。

## L-3

- CC とインターネット/パソコン通信：丁 元鎮（NIFTYSERVE FDRUG システムオペレーター）

日常医療に必要な情報検索のためのインターネットの利用方法、インターネット上でコクラン共同計画にアクセスし、利用する方法についてデモンストレーションした。

## L-4

- TIP データベース「くすりのガイド」：

TIP 誌「正しい治療と薬の情報」で連載した「患者向けの薬の説明書」のデータベースが、TIP データベース「くすりのガイド」である。その Windows 版、Macintosh 版、桐版それぞれの紹介と解説をした。Windows 版が TIP データベース「くすりのガイド」のオリジナル版であり、これを基本として、国立医薬品食品研究所のホームページ <http://www.nihs.go.jp/> に掲載されている。「くすりのガイド」のホームページは <http://www.nihs.go.jp/tip/tipdb.html>

【それぞれのシステム構築責任者およびその使用方法の解説】

Windows 版および国立医薬品食品研究所のホームページ

福井直仁（高松赤十字病院薬剤科）：使用方法：TIP 誌 11:49-53,1996

Macintosh 版

堂川嘉久（富山通信病院薬剤科）：使用方法：TIP 誌 11:74-76, 1996

桐版

杉山陽一（市立松原病院薬剤科）：使用方法：TIP 誌 11: 79-82, 1996（現在廃版）

## 患者向け「薬の説明書」TIP 誌に連載中 TIP データベース「くすりのガイド」

【患者さんは副作用も知りたがっています】

患者さんは、薬の有効性だけでなく副作用についても、バランスよく説明されることを望んでいます。薬の必要性が説明され、副作用症状があった場合の適切な対処の方法などがわかりやすい言葉で説明されていれば、副作用を知らされてもコンプライアンスは低下しません。このことは、TIP による「調査」で証明済みです。

【TIP「くすりのガイド」は患者さんへの説明、服薬指導に必携 !!】

TIP「くすりのガイド」は 1991 年 4 月より連載を開始し、1998 年 12 月号で 292 種類（成分）に達しました。その実績と医薬品評価の中立性から、数ある患者さん向け薬の説明書の中でも、最も信頼性がおけると高い評価を受けています。副作用情報も含めた十分な薬の情報を患者さんに提供するときは、ぜひ、TIP「くすりのガイド」を！

【TIP データベース「くすりのガイド」は、パソコンで利用できます】

TIP データベース「くすりのガイド」は Windows、Macintosh で利用できます。実費で TIP 誌購読会員へ提供しておりますが、ニフティサーブのフォーラム FDRUG のライブラリーからダウンロードするか、サネット医薬情報の TIP 服薬指導でも読めます。もちろん印刷もできますが、フロッピーディスクが便利です。いずれも TIP 誌連載中の「患者用薬の説明書」が基本ですが、説明書の簡略版など付随する部分は、多少異なります。ソフト製作者は、Windows 版（国立医薬品食品研究所ホームページの「くすりのガイド」のページのシステムおよび MS-DOS 版も）を高松日赤病院の福井直仁氏、Macintosh 版は富山通信病院の堂川嘉久氏です。

【TIP を使用中に注意することは？ TIP の副作用は？】

TIP はまっとうな記事ばかりを書いているのですが、従来の常識や処方習慣と異なることが多々あるため、戸惑うことがあるかもしれません。たとえば

- 1) 患者さんには、薬が不要の理由や変更の理由、また逆になぜ大量に（長期に）使用しなければならないのか、などをわかりやすく丁寧に説明する必要があります。そうしないと、患者さんに無用の混乱を与え、逆効果になることがあり得るからです。
- 2) したがって、診療に時間がかかる半面、使用する医薬品の数や量は少なくなり、診療報酬がおそらくは一時的に減少するでしょうが、本当に適正な処方と丁寧な説明がなされれば、大抵の場合は最終的には患者さんに喜ばれるに違いありません。

【TIP の購読問い合わせは】

TIP 誌は、毎月発行（月末発行）の月刊誌。通常の書店や医学専門書店では扱っていません。年間購読会員へ郵送にて直接お届けいたします。詳しくは下記事務所へ。

TIP 大阪事務所（担当 坂口、有本）

TEL 0723-30-1602 FAX 0723-30-9396

TIP 東京事務所（担当 口山、中村）

TEL 0423-25-6983 FAX 0423-25-5148

医薬品・治療研究会

代表（TIP 編集長）別府宏園（東京都立府中療育センター）

副代表（TIP 副編集長）浜 六郎（医薬ビジランスセンター）